

第四次我孫子市総合計画策定のための  
中学生まちかいぎ

日時：令和元年7月1日（月）15時30分～17時30分

場所：湖北台中学校

目的：第四次総合計画策定に向けて、未来の我孫子市を担う子どもたちの意見を参考とするため、中学3年生を対象に意見交換会を実施しました。

【参加中学生】

平成30年度に平和事業で広島に派遣された中学生 12名  
（市内中学校全6校から男女各1名）

【実施内容】

2グループに分かれて、ワークショップを実施しました。

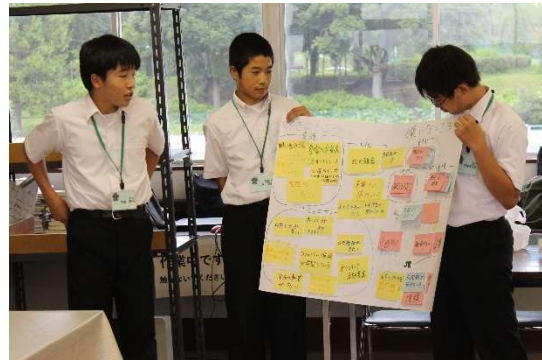
- ① 我孫子市の「好きなところ（良いと思うところ）」「嫌いなところ（気になるところ）」について、意見を出し合いました。
- ② 出された意見を踏まえて、「どんなまちになってほしいか」「住み続けるには、どのようなことが必要か」について、考えをまとめました。
- ③ まとめた考えを、1人1人が自分の想いを込めながら、市長・副市長・教育長に発表し、講評を受けました。



## 【Aグループの意見】

<我孫子市の好きなところ（良いと思うところ）>

- ・自然が豊か。
- ・公園が多い。身近にある。
- ・コミュニティ施設が充足している。
- ・ボランティア活動が豊富。
- ・お祭りが多い。
- ・給食で我孫子産の食材を使っている。
- ・平和事業が盛ん。
- ・文学者が多い。
- ・子育てに尽力している。
- ・田舎過ぎず都会過ぎず、ちょうどよい。



<我孫子市の嫌いなところ（気になるところ）>

- ・特産品が少ない。我孫子と言えばコレというものがない。
- ・街灯が少なく、不審者が出やすい。
- ・手賀沼は昔よりはきれいになったと聞くが、まだまだ汚い。
- ・お店が少なく、印西のイオンや柏のアリオのような楽しいところがない。
- ・働く場所が少ない。
- ・人口などで東西格差がある。
- ・成田線の本数が少ない。

<どんなまちになってほしいか、住み続けるにはどのようなことが必要か>

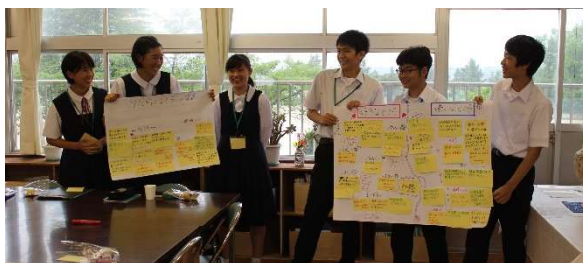
- ・子どもが通学しやすく安全なまち。
  - 危険な所（湖北の危険階段）を整備する、道幅を広げる、道を明るくする、コミュニケーションが多いまち（犯罪を減らす）。
- ・通学通勤しやすいまち。
- ・公共施設を時代に合った設備にする（情報化、グローバル化）。
- ・伝統を継いでいくまち。
  - お祭りに子どもがあふれてほしい。
- ・子どもにも高齢者にも優しいまち。
- ・人口が減少しないまち。
  - 我孫子の良いところを発信、働く場所を増やす、人が集まる（話題のグルメや建物）。



## 【Bグループの意見】

<我孫子市の好きなところ（良いと思うところ）>

- ・手賀沼を中心に、身近に自然がたくさんある。木々や水があり、落ち着く。
- ・多くのトンボが生息している自然環境がある。
- ・子どもの医療費が200円で、子育てしている人に優しい。
- ・布佐地区では、地域の方と郷土芸能や薙刀などについて学習する機会が月に1回あり、地域とのふれあいが多。
- ・駅前花壇ボランティアの活動など学校で行っている活動がある。
- ・花火大会やお祭りなど楽しめる環境が多くある。
- ・給食は我孫子産のお米や野菜が使われており、給食センターから運ばれるのではなく、自校で作った温かい給食が食べられる。
- ・平和事業に力をいれている。
- ・都心に近く遊びに行きやすい。
- ・常磐線は便利。
- ・学校にエアコンがある。
- ・岡田武松さんなど有名な人が多い。



<我孫子市の嫌いなところ（気になるところ）>

- ・街灯が少ない。
- ・市民体育館が遠い。徒歩で30分かかるため、バスを整備してほしい。
- ・駅前に活気がない。
- ・成田線の本数が少ない。
- ・手賀沼は我孫子のシンボルであるが、全然整備されていない。
- ・手賀沼沿い遊歩道に不法投棄が結構あり、自然環境破壊につながっている。
- ・学校と地域の結びつきをもっと強くしてほしい。
- ・大きいショッピングモールやカフェなど遊びにいけるところがほしい。

<どんなまちになってほしいか、住み続けるにはどのようなことが必要か>

- ・施設を充実させる。
  - 陸上競技場、合唱コンクールや音楽発表会などができる大きなホール、クリーンセンターを活用した温水プール、市民体育館などの公共施設に気軽に行けるバス。
- ・いろんな人が安心して暮らせるまち。
  - 地域全体が一体になって子育てなどに協力する。
- ・娯楽のあるまち。
  - ショッピングセンター、子どもが遊べる場（プール、ボウリング、カラオケ）。
- ・若い人を増やし人口を増加させるために、住宅地を増やす。



- ・流行を取り入れているまち。  
→インスタ映えする風景や食べ物、スイーツなどを発信する。
- ・環境保全のためのプロジェクトを実施する。
- ・自然の豊かさを全面的に押し出した、家族が遊びに行けるような広場やイベントをつくる。子どもの心の成長にも寄与すると思う。
- ・ぐらついている歩道をなおして、高齢者にも優しいまちにする。

【市長・副市長・教育長からの講評】

市長・副市長・教育長からは、子ども達の熱い想いに一つずつ丁寧に講評がなされました。

講評に加え、市長からは目指しているまちづくりについて、副市長からは知ってほしい市の課題について、教育長からは目指している教育環境について、それぞれの想いを中学生に伝えました。

